

校内別室を活用した不登校生徒の支援

不登校生徒の状況

対象生徒は、集団に対する不安があり、小学校から不登校傾向になり、2週間に1回程度、保健室登校をしていた。中学校入学後も不登校傾向が継続しているため、当該生徒と保護者は、学習の遅れが気になっている。最初は放課後登校をしていたが、校内別室を利用してから日中に登校できるようになった。

具体的な取組

○安心できる環境づくり①

校内別室では、校内別室指導支援員や他の生徒と一緒に過ごせる交流ブース、一人で過ごせる個別ブースの両方を整備したことで、当該生徒の心身の状況に合わせて利用することができ、当該生徒の安心な登校につながった。



○安心できる環境づくり②

別室登校を始める際に「できることリスト」を提示した。カードゲーム、パズル、塗り絵、学び直しができる学習プリントやドリルなども用意し、選択肢を広げたことで、当該生徒が自己決定しながら無理なく別室登校できるきっかけになった。

○教職員と校内別室指導支援員の連携

校内別室での様子や活動状況を記録する「引継日誌」、いつ誰が利用しているか分かる「出欠状況ホワイトボード」や「利用状況ホワイトボード」を活用することで、全教職員が校内別室の様子を把握し、情報共有することができた。

○校内別室指導支援員との関係づくり

校内別室でも長時間過ごすとは疲れてしまうため、校内別室指導支援員が無理をさせないように、当該生徒の様子を見守りながら適宜声かけを行った。校内別室指導支援員の寄り添いにより、よい関係を築くことができ、現在は一緒に塗り絵をしたり、学習をしたりしている。

成果

校内別室に登校したいと思える居場所として整備することができ、当該生徒の登校を促した。

校内別室の利用状況を職員が把握できるようにして、共通理解を図ることができた。

課題

- ・校内別室指導支援員の人員確保
- ・生活指導が必要な生徒への対応

校内別室指導を活用した不登校生徒の支援について

不登校生徒の状況

対象生徒は、集団不適應がある。また、生活リズムが崩れ、不登校傾向となった。規則的に食事がとれていない現状も見受けられたので、給食の時間からの校内別室への登校を促した。現在は週 2 回の登校が安定し始め、気持ちの波はあるが、本人から、「毎日登校したい」という言葉が出るようになった。

具体的な取組

○校内別室指導の体制整備

校内別室では、心穏やかに過ごせるよう、掲示物や装飾を整えた。また、本人が達成できる、やりきれる目標を設定し、週 2 日の登校を目標とすることから始めた。



○S S Wとの連携

昼夜逆転の不規則な生活があり、また家庭での支援が安定せず、適切な食事をとれていない日があったため、登校時は、校内別室指導支援員やS S Wと給食を食べることとした。

○関係機関との連携

当該生徒だけではなく、家庭への支援も考え、S S Wや子ども家庭支援センターも介入し、少しでも登校しやすい形を模索した。多方面からのアプローチにより、徐々に登校が安定し始めた。

○校内別室指導支援員の効果的な関わり

校内別室指導支援員が当該生徒の話を傾聴することで、当該生徒の心の安定が図られた。

校内別室に安心して登校し、過ごすことができるようになったことで、当該生徒の学びへの意欲が高まり、漢字検定の問題等に取り組み始めた。

成果

昨年度より不登校出現率が約 3.6 ポイント減少した。授業などで時間が取れない担任に代わり、校内別室指導支援員が窓口になり、当該生徒の話をじっくり聞くことができ、不登校生徒の状況を把握し、理解が深まったことで対応策を複数検討できるようになった。

課題

- ・校内別室の環境をより充実させること。
- ・的確なサポートができる校内別室指導支援員を確保すること。